

「新しい東北」官民連携推進協議会

**令和6年度
意見交換会(第1回)**

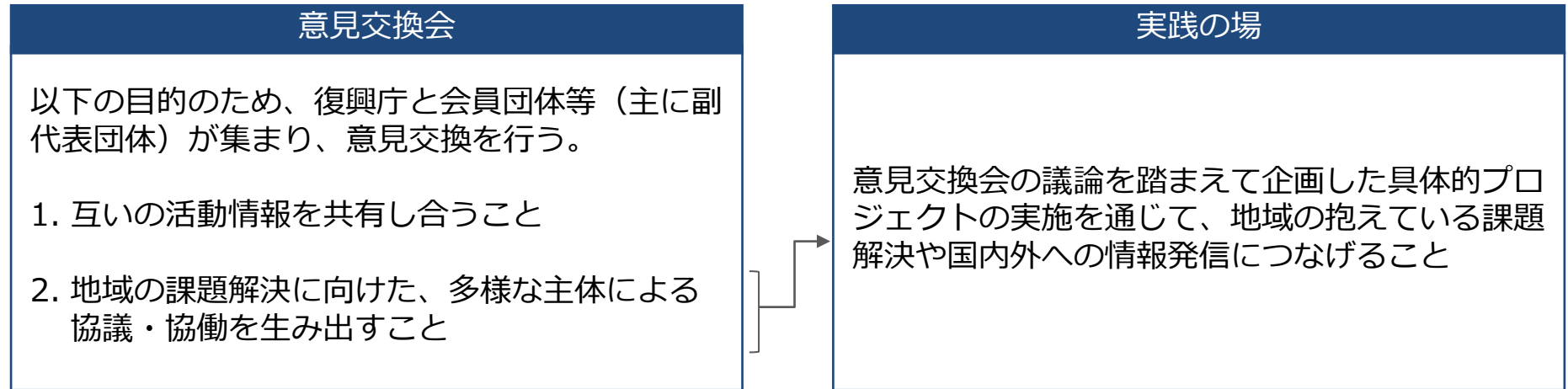
福島県

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

2024年6月28日

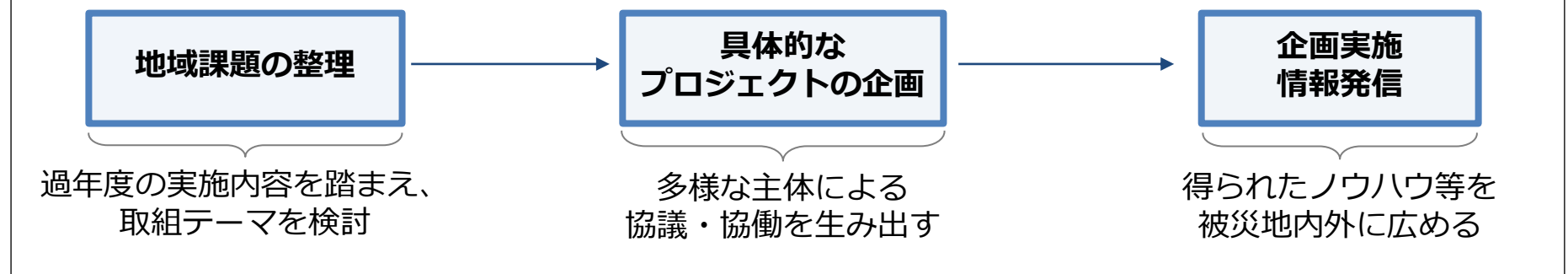
● 1. 意見交換会・実践の場の全体像

■ 意見交換会・実践の場の位置づけについて



■ 今年度の進め方について

- ・ 協議会の運営、意見交換会・実践の場の枠組みを用いた議論・推進の取組を継続
- ・ 昨年度と同様に、**具体的なプロジェクトの企画・実施を通じて、多様な主体による協議・協働を生み出す**
- ・ 単年度のためのイベント実施に終わるのではなく、**企画にかかわった方の継続的な関係性の構築など、地域や被災地外に何か（＝ノウハウ）を残す**ことができるような取組を目指す



● 2. 過年度実施状況：全体像

- 福島県の近年の取組では、**若者や学生に着目し、県内で活躍している方や県内企業等との交流**を内包した企画を実施。
- 令和5年度の意見交換会・実践の場では、**今年度「J-VILLAGE」を舞台に県内外の若者たちが「持続可能な地域づくり」を考える「話し合いの場」**を設けるため、**前準備の企画**を実施。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
テーマ	食・観光・伝統工芸など、地場産業の担い手確保	福島県での暮らし方・働き方に関する理解促進（魅力付け）	東日本大震災から10年目にあたって	学生主体のコミュニティを組成し、学生目線での発信を行う	未来を担う若者たちによる持続可能な地域づくり	県内外の学生に参画してもらう地域の魅力発信づくり
実践の場	「ふくしまキャリア探求ゼミ～ふくしま新しい働き方・チャレンジの仕方について知ろう～」（福島市） 福島県にU/Iターンをして新たな生活・仕事のスタイルを確立した先駆者の実体験を伝え、理解を深めてもらうためのワークショップ	「ふくしまキャリア探求ゼミ～自分らしいキャリアデザインを考えよう～」（福島市） 福島県内在住の高校生・大学生に対し、県内には魅力的な仕事・働き方が多くあることを知ってもらうために、県内で活躍しているゲストと対話し、学生自身が将来を考えるワークショップ	「ふくしまプラクティス2020 — 実践者が語る10年の経験とこれからの挑戦 —」（双葉郡楢葉町） 挑戦的な活動をしている多様な担い手に自身の活動に関する内省、言語化をしてもらう機会を設け、各々の今後の活動への糧としてもらうことを目的としたイベント	『「大学生発 福島キャリア新発見」読み会』（オンライン） 地域の中で魅力のある企業の若手社員を対象とした取材記事「大学生発 福島キャリア新発見」の創刊を目指して活動。次年度以降の福島県の企業の魅力を発信する活動の拡大と、取材を行った学生の皆様の成長を目的に、実践の場をオンラインで開催	「The Next Generation Summit in J-VILLAGE」 県内外の大学生、若手の社会人に参加いただき、福島県浜通りの視察、地域課題の解決に向けて地元で活躍している方々とのディスカッション、グループワークを通じて、次年度の「話し合いの場」の具体的な議論のテーマなどのプログラム案を検討。	「ふるさと愛プロジェクトin J-VILLAGE あなたに会わせたい「ふくしま」な人～72時間スケッチ旅行～への参加 県内外から25名の学生が集まり、「是非会ってみたい」と考える「ふくしま」な人との交流や、現地でのフィールドワーク等を行った。

● 3. 過年度実施状況：令和5年度の取組詳細

令和5年度の実践の場の企画内容

タイトル	“ふるさと愛”プロジェクト in J-VILLAGE あなたに会わせたい「ふくしま」な人 ～72時間スケッチ旅行～	開催日時	2/13（火）～15（木）
		開催場所	Jヴィレッジほか
主催・協力	主催：株式会社 Jヴィレッジ 協力：「新しい東北」官民連携推進協議会（福島県、福島大学、東邦銀行、ふくしま連携復興センター及び復興庁）		
企画趣旨	- 企画のテーマは、“「ふるさと」をテーマに、目指したい、目指すべき未来の姿を考える”こと。企画内容については、R4年度の参加学生も交えた運営委員会において検討。 - 全国の次世代を担う学生等に参加いただき、未来を見据え、福島復興に向けて果敢にチャレンジする地元の方々（＝参加学生等に「是非会ってもらいたい」と考える“ふくしま”な人）との交流や、現地でのフィールドワーク等を通して“福島の魅力”を発見し、“ふるさと愛”について考える2泊3日のプログラム。		
参加者数	25名（県内学生：8名、県外学生：16名、県外社会人：1名）	協力事業者数	14事業者
実施内容	1日目（2/13） - 現地事業者訪問（とみおかワインドメーヌ 遠藤代表理事） - 事業者講話（㈱オフィスショウ 斎藤氏）／アイスブレイク（芝生でのモルック体験） - ワークショップ「ふるさとトークフォークダンス」 2日目の訪問先マッチング・グループ分け - ドローンアートプログラミング（Next Commons Lab 南相馬 大向氏） 2日目（2/14） - フィールドワーク（4コースに分かれて現地事業者を訪問。詳細はp7） - ドローンアート見学（Next Commons Lab 南相馬 小野氏、大向氏） 3日目（2/15） - アウトプット制作 - 発表会		

● 3. 過年度実施状況：令和5年度の取組詳細

令和5年度の実践の場の企画内容

回	日時	議題	議論の内容（次回までの宿題）	参加人数
第1回	7月18日 18:00～	- 今年度の企画の進め方に関する説明 - プログラム案やアウトプットイメージに関する議論 - 次回会議に向けたチーム分け 等	- 議題の内容について説明 （宿題）チームごとにプログラム内容やアウトプットイメージを議論し、第2回運営委員会において発表	17名（うち、学生6名）
第2回	8月24日 17:00～	各チームからの発表、議論（プログラム案、アウトプットイメージ）	- おおまかなプログラム案の決定 （宿題）プログラムの名称案、初日のTFDに招待できる、招待したい方案	14名（うち、学生2名）
第3回	9月27日 18:00～	会議の名称に関するディスカッション	- 会議名称の決定 （宿題）各々が会わせたい「ふくしま」な人案	13名（うち、学生3名）
第4回	10月24日 18:00～	「ふくしまな人」に関するディスカッション - 募集リーフレットの報告・募集先の検討	「ふくしまな人」リストからの協力打診者の絞り込み - リーフレットの確定	10名（うち、学生2名）
第5回	11月28日 18:00～	- プログラム案の詳細に関するディスカッション① - アウトプット方法の詳細に関するディスカッション①	2日目のフィールドワークのグループ分け・マッチング方法やアウトプットイメージについて議論	11名（うち、学生3名）
第6回	12月27日 17:00～	- 参加者の応募状況の共有 - プログラム案の詳細に関するディスカッション② - アウトプット方法の詳細に関するディスカッション②	- プログラム行程について大枠の決定 - アウトプットイメージについて議論	7名（うち、学生1名）
第7回	2月1日 18:00～	プログラム全体の確定	プログラム全体の確定	13名（うち、学生3名）

● 3. 過年度実施状況：令和5年度の取組詳細

令和5年度実施結果に基づいた次年度への取り組みについて

昨年度の第3回意見交換会では、若い世代に福島が抱えている課題や魅力を伝えるとともに、現地事業者間の連携の創出につなげることの重要性が共有され、次年度も同様の企画を継続するということで合意が得られている。

継続を考えた場合、今年度も昨年同様に学生に参画してもらう運営委員会のようなものを設置するのが良いが、時期や回数など学生の関わり方について検討が必要や、主催となるJヴィレッジにメリットのあるような成果物を検討すると良いといった意見もあった。

また、当企画の事後的な繋がり、自走までを見据えて、県を中心に現地自治体、移住・定住関連の団体や地域の事業者等と連携し、「ふるさと愛プロジェクト」の冠を活かしていく形での継続を目指すのが良いのではないかといった意見も得られている。

令和7年度が現在の形での協議会の最終年度とするならば今後、どのような取り組みとするか、例えば3県合同でのイベント等も検討に入れつつ、令和8年度以降の自走も見据えた検討、協議もしていければと考えております。

今回、イベント運営事業（会議運営・実践の場・招待状WS）を株式会社読売エージェンシーが取り扱うこととなりました。昨年度までの良い部分を継承しながら進めていきたいと考えますので、引き続きご支援ご協力をお願い申し上げます。

● 4. 今年度の取組方針

今年度の取組方針（企画の方向性）

○ J-VILLAGEを舞台とした「話し合いの場」の創造

- 12市町村の事業を見学し、県内外の地域事業者との関係を構築し継続的な取り組みを行う。
- 多角的な魅力開発やビジネスの可能性を共に検討し、新たな地域貢献を考える。
- 県内の学生や県内外から、地元愛を持って活躍している起業家や若いリーダーたちの交流の場とする。

＜イベントタイトル＞

“ふるさと愛”プロジェクト in J-VILLAGE

「Fu★Creation Summit（フ・クリエイション サミット）」

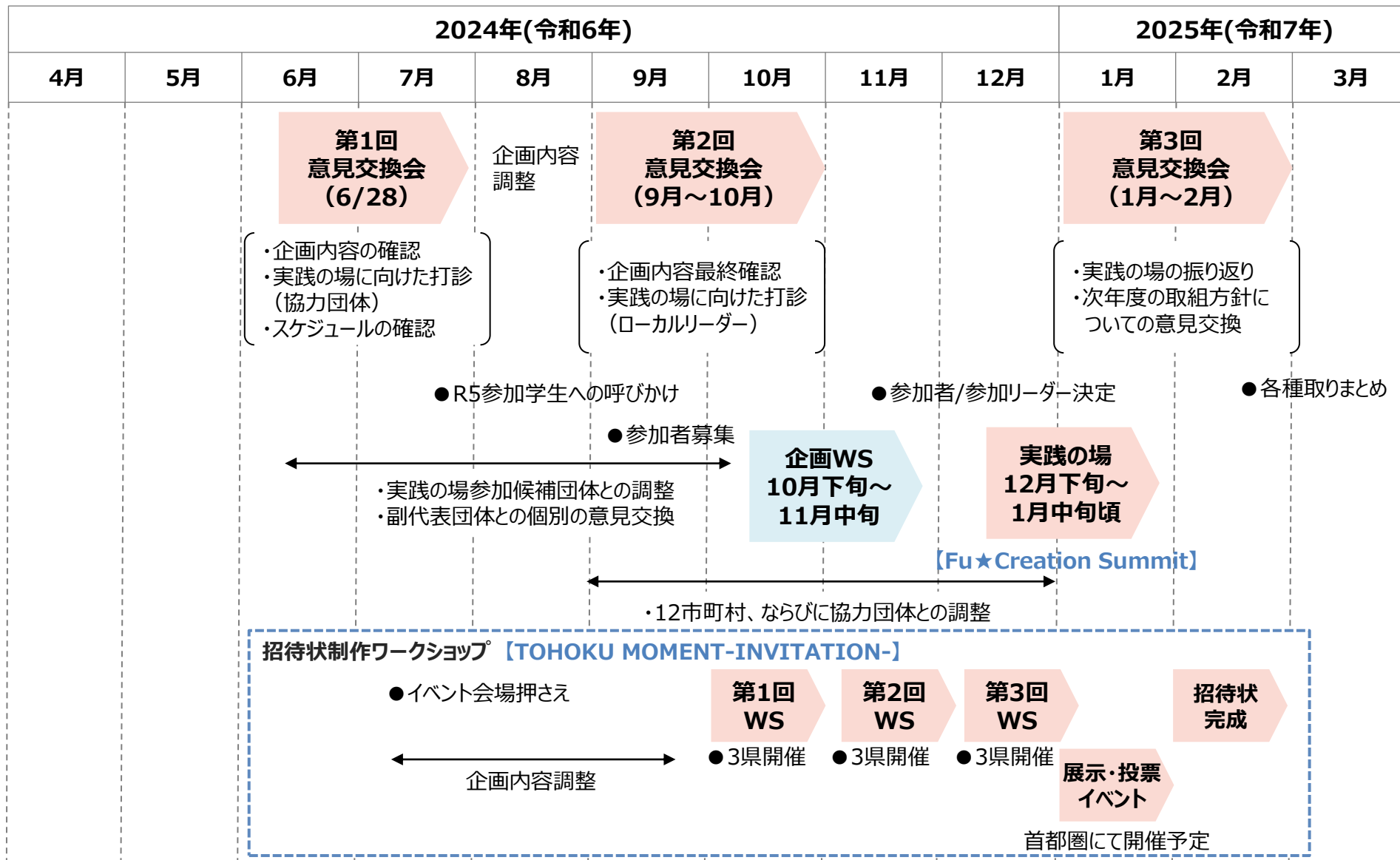
全国の若手ローカルリーダーたちと共に福島復興を通して、
福島の若者たちに地域貢献への関心を深め継続をもたらす環境づくり

J-VILLAGEに福島を愛するメンバーが集う場所を創り出す

コ・ワーキングスペースや定期的なイベントを設定、継続的に県内外からの参加者が集まるコアとなる

● 4. 意見交換会・実践の場のスケジュール

■今年度の意見交換会・実践の場のスケジュール



※スケジュールは今後の議論状況等により、変更の可能性がございます。

● 5. 今年度の取組内容について

①企画ワークショップ（KICK OFF MEETING）	
昨年開催時に参加した学生、協力事業者の方たちと、昨年のプレビューを含めたミーティングを開催し、今年度の「実践の場」に向けた検討会を行う。	
開催時期	・ 2024年10月下旬～11月中旬の開催想定
会場	・ J-VILLGE内施設を想定
内容	・ 今回の企画原案の確認、開催の方向性についての意見を交わし「実践の場」開催の調整を行う
主な参加者	・ 昨年参加者：25名（県内学生：8名、県外学生：16名、県外社会人1名）からの参加を想定 ・ 昨年参加協力事業者：16名（14事業者＋個人）からの参加を想定
目的	・ 今年度の企画内容の説明と調整事項の確認 ・ 昨年実施を踏まえ、今年度実施時へ反映すべき点の抽出と実現方法 ・ 12市町村からの要望を共有
実施内容	■ 当日の進行イメージ <10min> 「企画の趣旨説明(復興庁ご担当者様想定)」 <50min> 「企画概要説明・昨年実施からのフィードバック」 <10min> 休憩 <70min> 企画実施に向けての検討・協力対象（県内の人・企業・店舗等のピックアップ ※復興した企業や店舗だけでなく観光地や震災後に移住されてきた方のお話などを加え、復興の軌跡も盛り込む <10min> 休憩 <60min> 当日のイベント・コンテンツ構成の検討・調整

● 5. 今年度の取組内容について

②“ふるさと愛”プロジェクト in J-VILLAGE 「Fu★Creation Summit（フ・クリエイション サミット）」（仮称）

全国のローカルプレイヤー・若手起業家が集まり、12市町村の復興の現状や魅力、地域課題や育成などをテーマに「福島は今」を知り未来の若者に魅力ある福島の可能性を生み出し地元（ふるさと）愛を育む場とする。

開催時期	・ 2024年12月下旬～2025年1月中旬の開催想定
会場	・ J-VILLGE内施設を想定
内容	・ 1泊2日でワークショップ、フィールドワークを実施し、新たな魅力発見を
主な参加者	・ ローカルプレイヤー 4 名（起業家） ・ 県内16名（学生・若手起業家） ・ 地域企業（各市町村12社） 1グループ プレイヤー1名・学生4名 （4グループ想定）
実施内容	<1日目> - 顔合わせ、自己紹介：参加者の自己紹介・J-VILLAGEの紹介など - グループ設定：特性や業種などでグループ分けし、テーマや検討内容を設定。 - グループワークショップ：翌日のツアー内容を確認してシュミレーションを実施 - トークショー：12市町村を代表する地域企業などのキーパーソンを招聘してトークショーを開催。 - 交流会：軽食を囲んで交流会を実施 <2日目> - フィールドワーク：4グループに分かれて12市町村の見学ツアーを実施 - グループワークショップ：J-VILLGEに戻り、体験してきたものを話し合い魅力開発やビジネスの可能性を検討 - プレゼンテーション：グループごと発表を行い意見交換を実施。

Jヴィレッジに継続的な交流の場として、コ・ワーキングスペースを開設
 定期的な交流やビジネス商談などを行う機会を創出、積極的に双方コミュニケーションを図る

● 5. 今年度の取組内容について

■ 確認事項

Fu★Creation Summit

- J-VILLAGEへのコワーキングスペースの設定、定期イベント設定について
 - ・実現方法についてJ-VILLAGE様と協議
- 昨年参加者の声がけ、今年度施策への参加依頼について
 - ・参加学生、協力企業の連絡先の共有確認
- 12市町村の要望のヒヤリング方法
 - ・昨年実施までの連携内容と実施方法
 - ・12市町村の連絡窓口の確認
 - ・訪問先の設定などでの調整
- 「企画ワークショップ」「実践の場」開催日程の調整
 - ・J-VILLAGE様との会場・宿泊調整
- 最終日プレゼンテーション資料（PC作成）の活用方法（アウトプットについて）
 - ・昨年はポスターのアウトプットが議論に上っていたが、今年度の資料を事後に活用する方法について、県内・協力企業内での活用方法を確認

招待状制作 ワークショップ

- 開催スペースをご紹介いただけるか
 - ・現状は福島駅近隣の会議スペースを想定
- 銘菓賞品の準備について
 - ・推薦される商品、紹介いただける購入先

■ イベント事務局アドレス（株式会社読売エージェンシー）

new_tohoku_event@yomiuri-ag.co.jp 担当者：鈴木、菊池

● 6. 招待状作成ワークショップについて

■ 招待状作成ワークショップ TOHOKU MOMENT - INVITATION Workshop -	
東北3県の自然の美しさ、文化、そして震災からの復興へ向かう生活の一瞬一瞬を捉え、人々に深い印象を与えることで、国内外から東北3県に人を引き付ける全世界に向けた招待状の制作を行う	
開催時期	・ 1回目：2024年10月想定（岩手・宮城・福島） ・ 2回目：2024年11月想定（岩手・宮城・福島） ・ 3回目：2024年12月想定（岩手・宮城・福島）
会場	・ 岩手県/盛岡市内、宮城県/仙台市内、福島県/福島市内
内容	各県ごとにワークショップ開催し、招待状の構成などを考案する。観光地の他、企業や人物にもクローズアップすることをテーマとする。各県とも観光地を10箇所程度、企業や人物も各1コンテンツ程度を構成する。
主な参加者	・ 各県20名程度の参加者を応募
実施内容 (案)	・ 1回目：候補地の洗い出し・紹介企業や人物のイメージ設定・担当分け ・ 2回目：候補地・企業・人物の決定・文字構成案・ページネーション構成 ・ 3回目：企業・人物の取材・文字構成・最終調整（対応言語数調整中）



■ TOHOKU MOMENT – EVENT -	
首都圏のイベントスペースにて、ワークショップで校正したページをパネル化した展示イベントを開催。魅力を感じる場所に投票してもらうことでインバウンドや、イベント開催エリアの方たちの目線も通して、魅力的な東北3県のガイドブックを完成させる	
開催時期	・ 2025年1月中旬～2月上旬想定
会場	・ 東京（渋谷など）など首都圏1会場にて2日間の開催を想定
内容	・ 3県の校正ページを拡大（A4～B3サイズ程度）展示する。 ・ それぞれに投票用ナンバリングを実施し掲出します。※企業・人物紹介パネルは投票対象から除外する。 ・ 投票完了画面をスタッフに見せて、3県の銘菓が当たるガラガラ抽選会に参加いただく。